道具で変わる!
効率アップ清掃術

第1回 「掃き掃除」を極める

この連載では、アパートやマンションの清掃を、もっと楽に、きれいにする方法を、使用する道具とその使い方を交えながら伝授する。

第一回は、アパート・マンション清掃の基本のキ、掃き掃除について解説する。共用部のような広い場所を掃くには2本のホウキを使い分けるのがコツ。3本目のホウキを加えればプロの仕上がりになる。

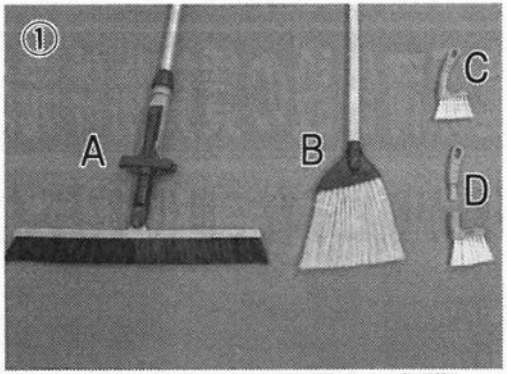
掃き方を変えれば短時間でキレイに

共用部の清掃で苦労していませんか。通路、階段、駐輪場、駐車場、そしてゴミ置き場…。たとえ小さな物件でも、共用スペースの掃除はそれなりに時間がかかるもの。なかでも手間がかかるのが掃き掃除です。

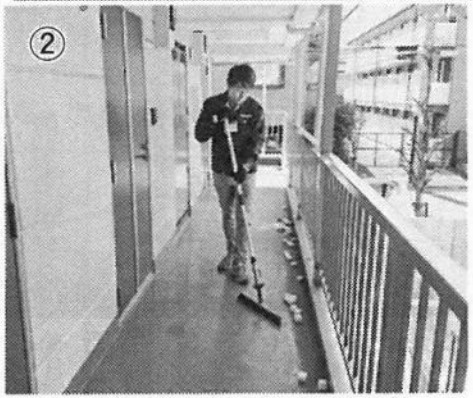
掃き掃除のコツはズバリ、2つの動きを分けて行うことです。ひとつは、ゴミやチリを「集める」動き。もうひとつは集めたゴミを「掃き取る」動き。その際に使用するホウキは2本。ゴミを集めるための自在ホウキ【写真①のA】と、集めたゴミをチリトリに掃き取るための掃き取りホウキ【写真①のB】です。

通路を掃く場合は、まず自在ホウキを使用します（穂先幅45センチのもの）。ドア側から反対の手すり壁側に向けて、ゴミや砂ボコリを掃き寄せていきます。手すり壁に沿って8センチ程度の帯状に掃き寄せていくのがポイントです。【写真②】

次に、片側に掃き集めたゴミをチリトリに取っていきます。このときに使用するのは掃き取りホウキ。片手で自由に扱えるサイズ・重さのものがおすすめ。シダやシュロなどの天然ホウキよりも、耐久性があり、穂先に適度な硬さ（コシ）がある化繊ホウキのほうが共用部清掃には向いています。



▶集める、掃き取る、掃き出す、など用途によって使い分けるのがコツ



▶帯状に寄せると掃き取りやすい

ホウキ三本を使い分けて差をつける

掃き取るときのポイントは、撫でるように掃くのではく、ホウキの穂先を床に当てるように掃くこと。しなった穂先の反発力を利用して、ゴミをチリトリにはたき込んでいきます。

慣れるまでは、2本のホウキを使い分けることが面倒に感じるかもしれません。ですがそれぞれのホウキの特性をうまく利用し、「集める」「掃き取る」を交互に行うことで、作業負担が軽減され、短時間でキレイに仕上がります。

排水口まで手入れしプロの仕上り

美観アップのためにもうひとつおすすめしたいのがサッシホウキ【写真①のC】。もともとはガラスサッシの掃除用に作られた道具ですが、共用部清掃にも使えます。ホウキでは掃ききれない狭い場所や四隅を掃くのに用います。毛先の密度が濃く、かつ柔らかいのが特徴で、階段の溝や排水口まわりの細かな土砂を掃き取るのに効果を発揮します。この3本目のホウキで細かな箇所まで逃さず掃くことで仕上がりにもうひとつ差がつきます。

なお、このサッシホウキには隠れたもうひとつの機能があります。短い柄の部分を引き抜くと、【写真①のD】のように2つに分割でき、ひとつは掃き出しヘラとして使えるようになります。排水口まわりに固まった土砂や髪の毛を取るのに使える大変便利なツールです。

道具を厳選して体を疲れにくく

ホウキとともに慎重に選びたいのがチリトリです。共用部清掃では【写真③】のような文化チリトリがおすすめ。本体がプラスチック製のため、音が反響しやすい共用部でも安心して使えます。開口部の接地面にはスロープ形のゴムがついているので、細かな土砂も残さず掃き取れます。

またこのチリトリは、柄の長さとL字の持ち手が人体にフィットするよう設計されているので、長時間使用しても疲れません。

道具の厳選は、清掃の効率を高め、疲労を抑えることにつながります。

清掃の極意三カ条

【壱】「集める」「掃き取る」を必ず交互に行うべし

【弐】2種類のホウキを使い分けるべし

【参】サッシホウキで隅々までしっかり仕上げるべし

たてものサービス
代表取締役
鈴木範之

出版社・編集プロダクションの編集者を経て、2003年金子商事・ダスキン中目黒店に入社。ハウスクリーニングやアパート・マンションなどの清掃現場を担当。2010年、中小規模のアパート・マンション・オフィスに特化した巡回清掃を行う「たてものサービス」設立。「人も建物も爽やかに」をモットーに、月間約500物件の「巡回点検清爽」を行っている。